

5. ^{エイ ミリヨール アンダール ア ベツ} É melhor andar a pé, ^{ポイス ア ルア リベイロ} 歩いた方がよろしい
^{バダロー エイ ベルチーンニヨ} pois a Rua Libéro ^{ダロー} 街は此所か
^{ダキー ネン レーバシンゴ} Badaró é pertinho ^{ダロー} 街は此所か
^{ミニートス ア ベツ ア} daqui, nem leva 5 ^{ダロー} ら極く近く、徒歩
^{ケン ノン エスター ベン} minutos a pé. A ^{ダロー} で五分も掛りませ
^{アタスツマード ダ シダ} quem não está bem ^{ダロー} ん。當市にヨク慣
^{チ セラー ウーマ アトラ} acostumado da cida- ^{ダロー} れて居ない人がリ
^{バリヤソン ベガール オ} de, será uma atra- ^{ダロー} ペロ、バダロー街
^{ボンヂ バラ ウン ルガール} palhação pegar o ^{ダロー} の様な近い所へ行
^{ベルト コモ ア ルア} bonde para um lugar ^{ダロー} くに電車に乗ると
^{ライベロ バダロー} perto como a Rua ^{ダロー} 却つてマゴツク基
^{セキンド エスタ ルア} Libéro Badaró. ^{ダロー} ですからね。
6. ^{セキンド エスタ ルア} Seguindo esta rua ^{ダロー} 此街に沿ふて真ッ直
^{ヂレイチーンニヤアデー エンコン} direitinha até encon- ^{ダロー} ぐに行くと、右手
^{トラール ウン ラルゴ アーヂ} trar um largo á di- ^{ダロー} に一つの廣場があ
^{レイタ ダイー ジャー ベルト} reita, dahi já perto. ^{ダロー} る、其所から最う
^{ベルゲンダ オウトラ ベース} Pergunta outra vez ^{ダロー} 近い。其廣場でモ
^{ネツセ ラルゴ ケ セ} nesse largo, que se ^{ダロー} ウー遍尋ねなさ
^{シヤーマ オ ラルゴ ア} chama “o largo de ^{ダロー} い、其廣場の名は
^{ソン ベント} São Bento.” ^{ダロー} ラルゴ、デ、ソン、
^{ダロー} ベントと言ふんで

7. ^{フイーコ ムイト アグラアデー} Fico muito agradecido, ^{ダロー} 御親切に有難う存じ
^{ダロー} ました。
8. ^{クワント ボツセー ケール アデー} Quanto você quer até ^{ダロー} バラ、フンダ街十五
^{ア ルア バルラ フンダ} a Rua Barra Funda, ^{ダロー} 番へ幾らで行つて
^{ヌーメロ キンゼ バラ シヤウツ} No. 15? (para chau- ^{ダロー} 呉れるね。(自働
^{フル} ffeur). ^{ダロー} 車運轉手に)
9. ^{コモ ケール アデー ア ダ} Como quer até a ta- ^{ダロー} ドットール、マヌエ
^{ベルリオン ド シニョール ドットール} bellião do Snr. Dr. ^{ダロー} ル、デ、オリベイ
^{マヌエル デ オリベイラ} Manoel de Oliveira? ^{ダロー} ラ氏の公證役場迄
^{ダロー} 幾らだい。
10. ^{ヂ ケ ルア} De que Rua? ^{ダロー} 何街ですか。
11. ^{ボツセー ノン サーベ ネン} Você não sabe nem ^{ダロー} 君は其街も知らない
^{ルア アヂミーロ フィーガ} rua? Admiró! Fica ^{ダロー} のか。驚いたね!
^{ナ ルア ベンチアード} na Rua Penteado, ^{ダロー} ベンチアード街十
^{ドーゼ} 12. ^{ダロー} 二番だ。
12. ^{コールレ デプレツサ} Corre depressa! ^{ダロー} 急いで呉れ!
13. ^{バラ オ エスクリットーリオ} Para o escriptorio ^{ダロー} 十一月十五日街百十
^{ド ドットール シルバ イ ソウヂ} do Dr. Silva e Souza, ^{ダロー} 一番地、辯護士、
^{アヂボガード ルア キーンゼヂ} advogado, Rua 15 de ^{ダロー} シルバ、イ、ソ
^{ノベンプロ ヌーメロセントイオンゼ} Novembro, No. 111. ^{ダロー} ザ博士の事務所

- アンダ
Anda! へ。さ、早く。
14. ^{バ-モス} Vamos ^{パラ} para ^ア a ^{サ-ンダ} Santa ^{カ-ザ} Casa ^デ de ^{ミ-ゼリコ-ルヂア} Misericórdia! 慈善病院迄遣つて呉れ! ソロソロ遣つて呉れよ、僕は脚の傷が痛むで弱つてるんだからね。
- ^{コ-ルレ} Corre ^{ベン} bem ^{デバガ} devagarinho, ^{リ-ンニヨ} pois ^{ボイズ} estou ^{エストウ} so- ^{リツ} ffrendo ^デ de ^{フェリ-ダ} ferida ^ナ na ^{ペ-ルナ} perna. ^{エンテンデウ} Entendeu? いゝかい。
15. ^{コン} Com ^{リセ-ンサ} licença. ^{オテ-ル} (Hotel) 御免なさい。(旅館にて) 今晚は、貴方の方に泊めて貰ふ小部屋がありますか。僕一人です。
- ^{シム} Sim, ^{シニョ-ル} senhor, ^オ o ^{シニョ-ル} Senhor いらつしやいませ。 ^{デモ-ラ} demora ^{ムイト} muito? 永く御逗留でございますか。
- ^{ノン} Não ^{タント} tanto, ^{ソー} só ^{ウ-マ} uma ^{ノイチ} noite ^{オウ} ou ^{ヅ-アス} duas, ^{アテ-} até ^{アカバ-ル} acabar ^オ o ^{メウ} meu ^{ネゴ-シオ} negocio ^{コン} com ^{アチボガ-ド} advogado ^イ e ^{ファゼ-ル} fazer ^ア a ^{コンプラ} compra ^{ヅ-マ} duma ^{マ-キ} machi- 永くない。辯護士に交渉のあるのと、精米機を一臺調達したいんだから、ホンノ一晩か二晩

- ^ナ na ^デ de ^{ベネフィシアル} beneficiar ^{です。} です。
- ^{アルロ-ス} arroz.
18. ^オ O ^{シニョ-ル} senhor ^{ケ-ル} quer ^{ウン} um ^{クワルト} quarto ^{モビリア-ド} mobiliado? 貴方は家具付きの御部屋を召しますか。
- ^{ノン} Não ^{プレシ-ザ} precisa ^{ル-シヨ} luxo. ぜいたくは要らんよ。
- ^{マ-ス} Mas.... でもございませうが。
- ^{クワルク-ル} Qualquer ^{クワルト} quarto ^{セルベ} serve, ^{バスタ} basta ^{ドルミ-ル} dormir ^イ e ^{コメ-ル} comer. ^{クエ-スト-ン} Questão ^{エイア} é ^{デスペ-ザ} a ^{despeza.} 何んな室だつて構はないよ、寝て食事ができれば充分だ。問題は費用の點さ。
- ^オ O ^{ノツソ} nosso ^{レグラメント} regulamento ^{エイ} é ^{アツシン} assim. ^{チア-リオ} Diario, ^{キンゼ} 15 ^{ミル} mil ^{レイス} reis ^{パラ} para ^ア a ^{プリメイラ} 1a. 手前共の御約束は斯様でございます。
- ^{クラツセ} classe ^イ e ^{ド-ゼ} 12 ^{パラ} para ^ア a ^{シグンダ} 2a. 一等の御客様には一日十五ミル、二
- ^{アンバス} Ambas ^{クラツセス} classes ^{テン} tem ^{カ-マ} cama ^{コン} com ^{ジヤンタ-ル} jantar ^イ e ^{カフエイ} café ^ダ de ^{マニヤン} manhã. 等様十二ミル、頂いて居ります。何れも御寝具の外

御夕飯と朝のコー
ヒを差上げます。

23. ^{プレフイロ ア セゲンダ クラッセ}
Prefiro a 2a. classe, ^{ボウ ジヤンダール デボイス デ}
vou jantar depois de ^{トマール パーニョ オンヂ}
tomar banho. Onde ^{エイ ケ セ フイーカ オ}
é que se fica o ^{クワルト}
quarto? ^シ 二等に仕様。入浴し
てから夕飯を取ろ
う。それで室は何
處なんだね。
24. ^{ジャーベン オ ガルソーン}
Já vem o garção. ^{テンニヤ ア ジエンチレーヂ デ}
Se tenha a gentileza de ^{デイシヤール ネスタ ア スア}
deixar nesta a sua ^{グワツサ プロフイツソーン イダ-}
graça, profissão, ida- ^{ヂ イ レジデーンシア}
de e residencia. ^シ ハイ、只今スグ、ボ
ーイが参ります。
恐入りますが此所
へ一寸、御尊名、
御職業、御年齢、
御住所を御認め願
ひます。
25. ^{ポイズ ノン テンニョ}
Pois não. Tenho ^{アキ オ メウ カルトーン}
aqui o meu cartão. ^{プロフイツソーン アグリクトル}
Profissão, agricultor, ^{イダヂ ツリンダ}
idade, 30. ^シ ア、宜ろしい。私は
茲に名刺を持つて
る。職業は農業、
年齢は三十。
26. ^{シン シニョール オ シニョール}
Sim, senhor, o senhor ^{ボーヂ バツサール ア ノツソ}
pode passar a nosso ^{タイード クワルケール コイヂ}
cuido qualquer coisa ^シ ハイ、ハイ。何か御
大切な品で御預り
致しますものは大

^{プレシオーザ ア グワルゲール}
preciosa a guardar. ^{ノン テン アルゲーマ バ}
Não tem alguma ba- ^{ガーツエン ナ エスタソーン}
gagem na estação?

切に御預り申上げ
ますから。もう驛
の方に御荷物はご
ざいませので。

27. ^{ソー エスタ マーラ ネン}
Só esta mala. Nem ^{コイヂ プシオーザ ア グ}
cousa preciosa a gu- ^{ワルゲール ポイズ ボウ エン}
ardar, pois vou en- ^{トレガール アオ セウ クイード}
tregar ao seu cuida ^{ウン カデールノ デ シエー}
um caderno de che- ^{ケ フ バンコ イ オ}
que do Banco e o ^{ヂニエイロ ナ インボル}
dinheiro na impor- ^{ターンシア デ ツゼントス ミル}
tancia de 200 mil ^{レイス ベエ セ テン}
reis. Vê se tem. ^{ツゼントス ミル レイス エスタ}
28. 200 mil reis, está ^{セルト イ エステ カデールノ}
certo, e este caderno ^{デ シエーケ セン ツービ}
de cheque, sem duvi- ^{ダ アルゲーマ シニョール}
da alguma, senhor. ^{バツサーモス オ レシーボ}
Passamos o recibo? ^シ 此の鞆だけだ。外に
預つて貰ふ様な貴
重品も無い。所
で、銀行の小切手
帳一冊と、現金二
百ミル御渡しして
置かう。一寸あら
ためて見て下さ
い。
29. ^{ノン プレシーヂ デツソ}
Não precisa disso. ^シ 二百ミルレイス、確
かに。それから此
の小切手帳、確か
に御預り申しま
す、御安心願ひま
す。受取を差上げ
ますでせうか。
そんなにして貰はな

- ポツソ イール
Posso ir? く共宜ろしい。モ
ウ行つていゝです
か。
- ア コンモド シン
30. A commodo, sim, 何卒御寛りと。
シニョール
senhor.
- ガルソーン ド オテル
31. (Garção do Hotel) (ホテルのボーイ)
オ バニョ エスター プロン
O banho está prom- 御風呂の御用意が出
ト シニョール オ セウ
pto, senhor. O seu 来ました。御夕飯
ゴースト デ ベビダ ナ
gosto de bebida na の御膳に御酒は何
メーザ
meza? に致しませか。
- ノン ソウ タンケ サーベ
32. Não sou tanque, sabe? 僕はタンクぢやない
ウーマ セルベージヤ ジャーバー
Uma cerveja já ba- んだよ、ビール一
スタ
sta. 本でモウ充分。
- ノ テレフォーン
33. (No telephone) (Le- (電話室にて) (機械
バンダンド オ レセプトル
vantando o receptor の受話器を手にする
ド アツパレリョ ア テレ
do aparelho, a tele- ると、交換手がス
フォニスダ ローゴ アツテン
phonista logo atten- グ出て、『何番へ』
デ デゼント ケ
de, dizendo “que と尋ねる)
ヌーメロ ファス ファホル
numero, faz favor?”
- ファス ファホル デ ミ
34. Faz favor de me 本局の百二十三番へ
リガール ア ウン ドイス ツレス セント
ligar a 1, 2, 3, Cent- 願ひます。話し

- ラール オツクバード
ral. Ocupado! 中。
- ミ タツ ウン ドイス ツレス セン
35. Me dá, 1, 2, 3, Cen- 本局の百二十三番。
トラール
tral.
- エルレ ノン アツテンダ
36. Elle não attende, 先方は出ませんです
シニョール
senhor. ヨ。
- トルナ シヤマール マイス
37. Torna chamar mais モウ一度呼んでみて
ウーマ ベース ファス ファホル
uma vez, faz favor. 下さい、頼みます。
- プロント ケン ファアラ
38. Prompto, quem falla? ハイ、誰方ですか。
- アローン エイア コンパニニア カイガイ
39. Halón, é a Cia. Kaigai モシ、モシ、貴方は
コーギョー
Kogyo? 海外興業會社さん
ですか。
- シン シニョール オ ケ
40. Sim, senhor, o que 然うです、何か御用
シニョール デゼージャ
senhor deseja? ですか、
- ファス ファホル デ シヤマール
41. Faz favor de chamar 濟みませんが、山田
オ シニョール ヤマーダ シ
o snr. Yamada, si さん御いででした
エスタベール
estiver. ら一寸御電話口迄
願ひます。
- プロント ソウ オ ヤマー
42. Prompto, sou o Yama- ハイ、山田です、ど
ダ ケン エイ
da, quem é? なたですか。

註解 capital, 資本, 首府, (資本は男性。首府は女性)。se tenha a bondade de, 何卒……して下さ

い。se tenha a gentileza de, 前句に同じ。me dizer, 私に言ふ, 教える。atrapalhação 面喰ふ, マゴツク, 混雜する。^{アー} ^{フレイタ} á direita, 右側に。^{アー} ^{エスケールダ} á esquerda, 左側に。andar a pé, 徒歩する。nem leva 5 minutos, 五分間も掛らぬ。nem が não といふ打消しと “も” といふ二ツの意を表はす。例, **Nem casa, nem sitio**, 家も無ければ, 土地も無い。例, **Nem um vintem**, ビター一文も無い。例, **Não sabe nem rua! Admiro!** 街の名も知らぬなんて, 驚いたね。(物を知らぬにも程がある, の意)。anda! 歩め, 走れ。の意なれど, 相手を急がす場合に使ふ。diario, 泊料一日分, 宿賃。ブラジルの旅館で一日分と言へば, 日本と同様夕飯と朝のコーヒーとパンの付いた一泊の意で, almoço, 其他は一泊勘定即ち diario に這入つて居ない。almoço 其他 bebida は, despeza ^{エストラ} extra, として追徴されます。泊るに, comida e cama, と言ふと, jantar, café da manhã e cama の意で, só cama, と言へば寝る丈けである。又 quarto, 或ひは ^{アポゼント} aposento, (室) に mobilia 或ひは comodo 付きのものと sem のものとある。一元客には avanço, 前金, を要求する旅館などもある。ブラジルの旅館は日本と違ひ, 料理屋をも

兼ねて居るので, 泊らぬ人々でも食事だけに來る人がある。之れは hotel の freguez で, 泊客の方が hospede, である。旅館は食事時間が豫め何時から何時迄と定めてあつて, 其時間, hora da meza (着席時間), 或は, hora da refeição (食事時間), に meza に就かねば食ひ損ふ。旅館の主人或ひは女將が主席に着き, 食卓は sópa から開始される。食卓に酒盃があつても先づ sópa から始める。sópa が済むと comida と bebida とで食する。sobremeza 迄 bebida を用ふる慣習である。食事時間は一日中の最も楽しい時間とされて居るので, 食べ乍ら, 和氣と笑聲に満ちて所謂團欒するのである。日本の様に行儀するのに氣ばかり配つて喉に物のつまる様な, 白らけた, 黙んまりは嫌はれる。窮屈な所なく, 打ち融けた氣分で自由に談ずる。打ち融けた裡にもチャンと禮儀が守られて居る。即ち, 禮儀を形式で行かずに心の中で忘れない。而して氣分はユツクリとして居る。斯んなデリケートな心持を次第に養成して行けば所謂日本人は交際しにくひなどと外人から言はれないで済む。何んと言つたつて外人との交際は meza である。食堂で他の人々に氣の置ける様な氣分を誘ふ様では決して眞の meza でな

い。大都會の大食堂へは如何はしい服装をしては出られない。日本流のゴーケツ型は都會で認めて呉れぬ。田舎の小さな町になると己う服装に頓着しないで宜ろしい。客の殆んど全部が^{ローサ}roçaの人だから、カーキ色の仕事服で、或る者は乗馬服で、たゞカラー丈け取換え、ネクタイを正して、手と顔を洗つて食堂へ出る。そんな所は日本人農夫の心持に合ふ様な、健實な趣がある。^{パウリスタ}Paulista 即ちサンパウロ人は此邊の心意氣に「田舎者は建設者なり、都市の弱蟲シツカリしろ」と叫び度い元氣と向上心と生産的な鼻息を含めて居るのであります。稱してパウリスタ氣質と呼ぶのであります。皆さんは健實なパウリスタ氣質の人となつて下さい。

▲電話の掛け方 電話の掛け方位は心得て置いた方が宜ろしい。先づ電話帳で相手の番號を探がす。相手が本局百六十五番なれば、先づ電話機の受話器を上げる。と自然に電話局に通じて交換手が『que numero quer?』何番へ、と尋ねる。『1, 6, 5, central』と交換手に言ふと、スグ通じて呉れる。先方は『prompto, quem falla』ハイ、何人、と言つて attende します。^{アローン}モシ、モシ、は halón といふ。話中、は^{オツクバード}occupado、と云ふ。番號は數字をたゞ順に列べて言ふ。一千五百三十

五番といふのは、^{ワン シンゴ プレス シンゴ}1, 5, 3, 5. によろしい。サン、パウロの如き大都會では電話局が方々に區立して居るから、^{セントラル}本局 とか ^{ブラス}Braz とか ^{シダーヂ}Cidade とか區名を番號數字の最後に付けて言ふ。數字の中で六だけは明瞭を期する爲めに半打即ち^{メイア}meia ^{ヂーヂア}duzia と呼ぶのです。六百六十六番なら、meia duzia, meia duzia, meia duzia と御叮嚀に列べるのです。話が濟めば受話器を元の^{ガンシヨ}gancho (鍵) へ掛けたゞけで電話は自然に切れて居ます。交換局へは通じないでも宜ろしいのであります。街頭にある自働電話のことを^{アウトテレフォ}autotelephone と言ひ、電話掛ける事を^{テレフォナル}telephonar と言ひ、電話帳のことを^{リープロ デ アツシナンチ}livro de assignante と言ひ、電話料のことを^{タツシヤ}taxa ^{テレフォニカ}telephonica 亦是に單に^{タツシヤ}taxa といふ。um tostão か dois tostões であります。

▲Não sei, 知らぬ、存せぬ。兩手を擴ろげ氣味にし、口を尖がらせ、頰を突き出し、肩を窄める様な身振りしながら、眉を心持ち上げて、nã sei, と發音する。nã sei, を言はなく共前記の身振りだけでも、nã sei, の意を表はすのです。初めての者には變な格好に思えるがブラジルに長年居ると次第に慣れてきて自分でも知らぬ間に此身振りを遣つて居るものである。而

て不知不識裡に não sei, eu não sei, と口走つて居る様になつて來ます。モウ此所迄になると、ブラジル語も圭角が取れて大分上達して居る頃であります。

實用ブラジル語會話

終り

昭和五十七年三月二十三日
 昭和五十六年五月二十五日
 昭和五十五年八月十一日
 昭和五十四年十一月十七日
 昭和五十二年十二月二十三日
 昭和五十年十二月二十三日
 昭和四十九年十二月二十三日
 昭和四十八年十二月二十三日
 昭和四十七年十二月二十三日
 昭和四十六年十二月二十三日
 昭和四十五年十二月二十三日
 昭和四十四年十二月二十三日
 昭和四十二年十二月二十三日
 昭和四十一年十二月二十三日
 昭和四十年十二月二十三日
 昭和三十九年十二月二十三日
 昭和三十八年十二月二十三日
 昭和三十七年十二月二十三日
 昭和三十六年十二月二十三日
 昭和三十五年十二月二十三日
 昭和三十四年十二月二十三日
 昭和三十三年十二月二十三日
 昭和三十二年十二月二十三日
 昭和三十一年十二月二十三日
 昭和三十年十二月二十三日
 昭和二十九年十二月二十三日
 昭和二十八年十二月二十三日
 昭和二十七年十二月二十三日
 昭和二十六年十二月二十三日
 昭和二十五年十二月二十三日
 昭和二十四年十二月二十三日
 昭和二十三年十二月二十三日
 昭和二十二年十二月二十三日
 昭和二十一年十二月二十三日
 昭和二十年十二月二十三日
 昭和十九年十二月二十三日
 昭和十八年十二月二十三日
 昭和十七年十二月二十三日
 昭和十六年十二月二十三日
 昭和十五年十二月二十三日
 昭和十四年十二月二十三日
 昭和十三年十二月二十三日
 昭和十二年十二月二十三日
 昭和十一年十二月二十三日
 昭和十年十二月二十三日
 昭和九年十二月二十三日
 昭和八年十二月二十三日
 昭和七年十二月二十三日
 昭和六年十二月二十三日
 昭和五年十二月二十三日
 昭和四年十二月二十三日
 昭和三年十二月二十三日
 昭和二年十二月二十三日
 昭和元年十二月二十三日

複 不
製 許

定價金壹圓貳拾錢

<p>發行所 海外興業株式會社 東京市麴町區丸ノ内三丁目六番地</p>	<p>印刷者 杉田彌太郎 東京市麴町區麴町八丁目一番地</p>	<p>編輯者 海外興業株式會社 東京市麴町區丸ノ内三丁目六番地</p>
<p>印刷所 杉田屋印刷所 東京市麴町區麴町八丁目一番地</p>		

3.
9

終